

＜各教科等の指導の重点の見方＞

今年度の各教科等の指導の重点には、「問題解決的な学習を中軸とした授業の充実のために」の欄を設けました。2ページに掲載の全体構想図にある【授業づくりの6つのポイント】のうち、各教科等で重視したいポイントを2つ選び、具体的な手立てについて示してあります。

【授業づくりの6つのポイント一覧】

ポイント1	単元のねらいと子どもの実態等を踏まえ、系統性を図った単元構想の工夫
ポイント2	ねらいからまとめまでの整合性を図り、子どもの思考を大切にしながら、目指す子どもの姿と手立てを明確にした授業の設計
ポイント3	必然性があり意欲が高まる学習課題の設定と解決への見通しをもたせる工夫
ポイント4	思考を促し、見取り、生かす教師の働きかけの充実
ポイント5	思考の共有と吟味を促す学び合いをコーディネートする力の向上
ポイント6	学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実

教科	算数・数学 (小・中)
指導の重点	<p>○ 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付け、数学的な見方や考え方の育成を図るために、子どもの実態に応じて指導計画を改善する。</p> <p>○ 算数的活動、数学的活動を通して、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付け、数学的な見方や考え方の育成を図るために、子どもの思考過程を十分に見通した授業展開に努める。</p>
指導の工夫	<p>○ 子どもの実態や系統性を踏まえて、軽重を付けた指導内容の重点化を図る。</p> <p>○ 適切な学び直しを意識した年間指導計画を作成する。</p> <p>○ 問題解決的な学習を重視し、思考力、判断力、表現力等を育成する。</p> <p>○ 適切な習熟の機会を設け、知識技能の定着を図る。</p> <p>◎ 子どもが学習の主体者となるために、子どもの問いを引き出す課題設定の工夫をする。</p> <p>○ 思考の共有と吟味をする学び合いの場を設け、知識及び技能の確かな定着や数学的な考え方の育成を図る。</p> <p>○ 子どもの考えの数学的な価値を見取り、適切に価値付けながら授業展開に生かしていく。</p> <p>○ ICT機器の活用を図り、実感を伴った理解を促す。</p> <p>◎ 学習内容を振り返りの場を位置付ける。</p>
評価の充実	<p>○ ねらいが達成された具体的な姿を明確にし、子どもの言葉を価値付けながら、指導と評価の一体化を図る。</p> <p>○ 定着確認シートを積極的に活用する。</p> <p>○ 評価規準や「育てたい力」を、子どもの具体的な姿として明確にする。</p> <p>○ 家庭学習との接続を図りながら補充・補完を充実させる。</p>

◎… 特に重点的に取り組んでいただきたい項目です。下欄の授業づくりのポイントと関連しています。

問題解決的な学習を中軸とした授業の充実のために

※は参考文献等

授業づくりのポイント3 (【参考資料】確かな学力の向上のために) P9  
必然性があり意欲が高まる学習課題の設定と解決への見通しをもたせる工夫

◎ 子どもが学習の主体者となるために、子どもの問いを引き出す課題設定の工夫をする。

- 生活場面から問題を取り上げたり、操作を伴う算数・数学的活動を設定したりして興味関心を高め、事象に対して注目する視点を与えることで、疑問を感じさせ「問い」をもたせていく。また、「具体物」や「実演」、「ICT」を活用し提示方法を工夫する。
- 例 事例の学習で風呂に水をためる様子をVTRやコンピュータシミュレーションで提示したり、アニメーションで問題場面の理解を促したりして、変化する場合に注目させ、事象の含む要素をとらえられるようにする。

・ 既習事項を発展させる視点で問いかけするなど、「問い」を引き出す課題提示の方法を工夫する。

例 「できる」「できない」「あれ?」の提示を演出し「どうしてだろう?」を引き出す。

○ 子どもが主体的に活動に取り組む見通しをもたせ方の工夫

- ペアや小集団などで、めあて(学習課題)を確認させる。
- 日常の事象と関連づけて、答えの見積もりを立てさせる活動を重視する。
- レイアウトテストで確認したり、学級の掲示を工夫したり、課題解決に活用できる既習事項を想起させる。

P9… 「【参考資料】確かな学力の向上のために」と関連するページを示しました。

例… 各教科等の手立てに対しての具体例です。

①… 展開例など、順序性があるものについては、丸番号で示しました。

※… 参考にしてほしい文献や資料、ウェブページ等を記載しました。

授業づくりのポイント6 (【参考資料】確かな学力の向上のために) P15  
学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実

◎ 学習内容を振り返る場を位置付ける

何かが分かって、何が分からなかったのかを自覚させる。

例 ① 学習の見方や方策を用いる適用問題に取り組み、学習内容を再生させることで、どこでつまづいたかを明らかにさせる。

② 板書やノートを振り返り、子どもが主体的につまづきを修正していく。

・ 操作の手順を振り返ったり、どのような性質を使って課題を解決したのかを確認したりすることで学習内容が積み上がっていくことを実感させ、活用や発展の視点を育てる。

例 作図の方法を振り返り、図形の特徴の理解を深める活動

※ 平成28年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例 中学校 国立教育政策研究所 P9  
※ 授業改善ハンドブック「授業をつくる16の視点」 福島県 授業改善研修会 P26,P27

授業づくりのポイント6については、平成28年度の要請訪問の反省などから、平成29年度に重点的に取り組んでいただきたいポイントとして、どの教科にも記載しました。(道徳、特別活動、外国語活動、総合的な学習の時間は除く。)